

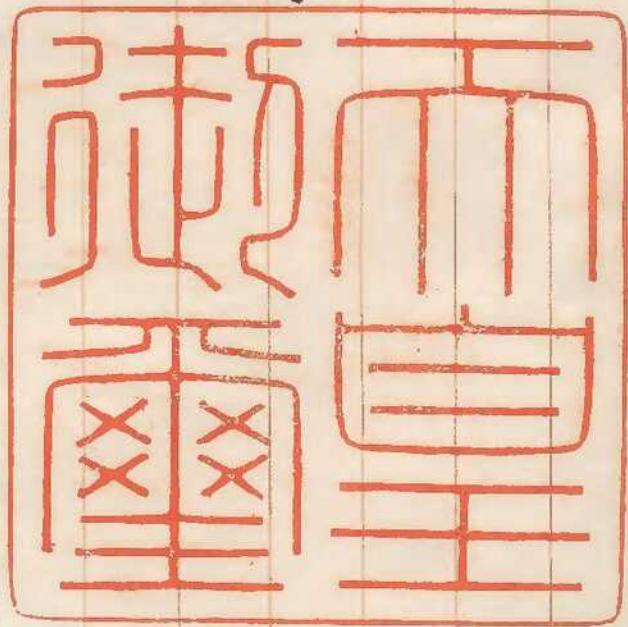
法行才号

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶  
臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣  
保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴  
張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ  
權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ  
市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布  
セシム





睦仁



明治二十二年四月十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内務大臣伯爵山縣有朋

法律第一號  
市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第二款 市住民及其權利義務

第三款 市條例

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 市行政



第一款 市參事會及市吏員ノ組織

選任

第二款 市參事會及市吏員ノ職務

權限及處務規程

第三款 給料及給與

第四章 市有財産ノ管理

第一款 市有財産及市稅

第二款 市ノ歳入出豫算及決算

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ

行政

第六章 市行政ノ監督

第七章 附則



市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第一條 此法律ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス別ニ市ト為スノ地ニ施行スルモノトス

第二條 市ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス



第三條 凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之  
ヲ變更セズ但將來其變更ヲ要スルコ  
トアルトキハ此法律ニ準據ス可シ  
第四條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ  
市ニ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコ  
トアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス  
第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣  
參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁  
決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴  
スルコトヲ得

第二款 市住民及其權利義務

第六條 凡市内ニ住居ヲ占ムル者ハ總  
テ其市住民トス

凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共  
ノ營造物並市有財産ヲ共用スルノ權  
利ヲ有シ及市ノ負擔ヲ分任スルノ義  
務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ  
權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此  
限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有ス



ル獨立ノ男子二年以來(一)市ノ住民  
トナリ(二)其市ノ負擔ヲ分任シ及(三)  
其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接  
國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其市  
公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタ  
ル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス  
但場合ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條  
ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免スルコ  
トヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十

五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ  
禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ  
市ノ名譽職ニ選舉セラレ、ノ權利ア  
リ又其名譽職ヲ擔任スルハ市公民ノ  
義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒  
辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス  
一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者  
二 營業ノ為メニ常ニ其市内ニ居ル



コトヲ得サル者

三 年齢満六十歳以上ノ者

四 官職ノ為メニ市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ市吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ経過セサル者及六年間市會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ経過セサル者

六 其他市會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辞シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ市會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得

前項市會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決



ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴ス  
ルコトヲ得

第九條 市公民タル者第七條ニ掲載ス  
ル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タル  
ノ權ヲ失フモノトス  
市公民タル者身代限處分中又ハ公權  
ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕  
罪ノ為メ裁判上ノ訊問若クハ勾留中  
又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ  
權ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務  
ニ參與セサルモノトス  
市公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務  
ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其  
職務ヲ解ク可キモノトス

均  
司



第三款 市條例

第十條 市ノ事務及市住民ノ權利義務

ニ関シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ関シ規則ヲ設クルコトヲ得  
市條例及規則ハ法律命令ニ抵触スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地



方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十一條 市會議員ハ其市ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ人口五万未満ノ市ニ於テハ三十人トシ人口五万以上ノ市ニ於テハ三十六人トス  
人口十万以上ノ市ニ於テハ人口五万ヲ加フル毎ニ人口二十万以上ノ市ニ於テハ人口十万ヲ加フル毎ニ議員三



人ヲ増シ六十人ヲ定限トス  
議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ時ニ之ヲ  
増減スルコトヲ得但定限ヲ超ユルコ  
トヲ得ス

第十二條 市公民(第七條)ハ總テ選舉權  
ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラレ、者  
(第八條第三項第九條第二項)及陸海軍  
ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス  
凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接市税  
ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納税

スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキ  
ハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉  
權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラレ、者  
及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ  
在ラス  
法律ニ從テ設立シタル會社其他法人  
ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同  
シ

第十三條 選舉人ハ分テ三級ト為ス  
選舉人中直接市税ノ納額最も多キ者



ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ  
三分一ニ當ル可キ者ヲ一級トス  
一級選舉人ノ外直接市税ノ納額多キ  
者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額  
ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ二級トシ爾  
餘ノ選舉人ヲ三級トス  
各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルト  
キハ上級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同  
額ノ納税者二名以上アルトキハ其市  
ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級

ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キト  
キハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ難キ  
トキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ  
選舉人每級各別ニ議員ノ三分一ヲ選  
擧ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラ  
ス三級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ  
得

第十四條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル  
市ニ於テハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設  
クルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級



選舉ノ為メ之ヲ設クルモ妨ナシ  
選舉區ノ數及其區域并各選舉區ヨリ  
選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ  
選舉人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ  
選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ  
區ヲ定ム其市内ニ住居ナキ者ハ課税  
ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定  
ム若シ數選舉區ニ亘リ納税スル者ハ  
課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ  
定ム可シ

選舉區ヲ設クルトキハ其選舉區ニ於  
テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ  
被選舉人ハ其選舉区内ノ者ニ限ラサ  
ルモノトス

第十五條 選舉權ヲ有スル市公民(第十  
二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス  
左ニ掲グル者ハ市會議員タルコトヲ  
得ス  
一 所屬府縣ノ官吏  
二 有給ノ市吏員



三 檢察官及警察官吏  
四 神官僧侶及其他諸宗教師  
五 小學校教員  
其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セント  
スルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可  
シ  
代言人ニ非ヌシテ他人ノ為メニ裁判  
所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨ス  
ルヲ以テ業ト為ス者ハ議員ニ選舉セ  
ラルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ  
市會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選  
舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ  
其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナ  
レハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシ  
テ選舉セラレタル者ハ後者議員タル  
コトヲ得ス  
市參事會員トノ間父子兄弟タルノ縁  
故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タル  
コトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故



アル者市参事會員ノ任ヲ受クルトキ  
ハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク  
可シ

第六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ  
六年トシ毎三年各級ニ於テ其半数ヲ  
改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キト  
キハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セ  
シム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤  
ヲ以テ之ヲ定ム  
退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中闕員アルトキハ每三  
年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選  
擧ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上  
闕員アルトキ又ハ市會、市参事會若ク  
ハ府縣知事ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト  
認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選  
擧ヲ行フ可シ  
補闕議員ハ其前任者ノ残任期間在職  
スルモノトス  
定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選



擧セラレタル選舉等級及選舉區ニ從  
テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 市長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選  
擧前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各  
選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リ  
テ選舉人名簿ヲ製ス可シ但選舉區ヲ  
設クルトキハ每區各別ニ原簿及名簿  
ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間市役所又ハ其他  
ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覧ニ供

ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セント  
スルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ  
市長ニ申立ツ可シ市長ハ市會ノ裁決  
(第三十五條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正  
ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之  
ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト為シ之ニ  
登録セラレサル者ハ何人タリトモ選  
擧ニ關スルコトヲ得ス  
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ  
辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場



合ニ於テ更ニ選舉ヲ為ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分テ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ市長ニ

於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設ク可シ

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ為スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行



フ投票ニハ被選挙人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選挙人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選挙人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス  
選挙人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選挙人名簿ニ照シテ之ヲ受テ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス  
第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選挙

ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ  
左ノ投票ハ之ヲ無効トス  
一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ  
二 被選挙人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ  
三 被選挙権ナキ人名ヲ記載スルモ



四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入ス  
ルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選  
舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルト  
キハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行  
フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコ  
トヲ許サス

第二十二條 第二項ニ依リ選舉權ヲ有ス

ル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコト  
ヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又  
ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代  
人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシ  
テ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但  
一人ニシテ數人ノ代理ヲ為スコトヲ  
得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シ  
テ代理ノ證トス可シ

第二十五條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ  
多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ



數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナ  
ルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ  
定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ  
（第十七條）投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘  
任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト為シ其  
數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ  
定ム

第二十六條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ  
選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル

後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書  
類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ  
投票ハ之ヲ選舉錄ニ附属シ選舉ヲ結  
了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條 選舉ヲ終リタル後選舉掛  
長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知  
ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五  
日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ  
一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當  
リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ



應々可キコトヲ申立ツ可シ其期限内  
ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選挙ヲ  
辭スル者トナシ又八條ノ處分ヲ為ス  
可シ

第二十八條 選挙人選挙ノ效力ニ關シ  
テ訴願セントスルトキハ選挙ノ日ヨ  
リ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコ  
トヲ得(第三十五條第一項)  
市長ハ選挙ヲ終リタル後之ヲ府縣知  
事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選挙ノ效

力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無  
ニ拘ラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ  
行フコトヲ得  
選挙ノ定規ニ違背スルコトアルトキ  
ハ其選挙ヲ取消シ又被選挙人中其資  
格ノ要件ヲ有ヒサル者アルトキハ其  
人ノ當選ヲ取消シ更ニ選挙ヲ行ハシ  
ム可シ

第二十九條 當選者中其資格ノ要件ヲ  
有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就



職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人  
ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件  
ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二欸 職務權限及處務規程

第三十條 市會ハ其市ヲ代表シ此法律  
ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並  
從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅  
令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決ス  
ルモノトス

第三十一條 市會ノ議決ス可キ事件ノ  
概目左ノ如シ  
一 市條例及規則ヲ設ケ並改正スル  
事



二 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第  
七十四條ニ掲クル事務ハ此限ニ  
在ラス

三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出  
及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ  
外使用料、手数料、市税及夫役現品  
ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事

六 市有不動産ノ賣買交換讓受讓渡

並質入書入ヲ為ス事

七 基本財産ノ處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ

除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ為シ  
及權利ノ棄却ヲ為ス事

九 市有ノ財産及營造物ノ管理方法  
ヲ定ムル事

十 市吏員ノ身元保證金ヲ徴シ並其  
金額ヲ定ムル事

十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル



事

第三十二條 市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十三條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監查スルノ職權ヲ有ス  
市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意

見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十四條 市會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十五條 市住民及公民タル權利ノ有無選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及市會議員選舉ノ效力(第二十八條)ニ關スル訴願ハ市會之ヲ裁決ス  
市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事



會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ為スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ為ノニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ為スコトヲ得

ス

第三十六條 凡議員タル者ハ選舉人ノ

指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十七條 市會ハ每曆年ノ初ノ一年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互

選ス

第三十八條 會議ノ事件議長及其父母

兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事

アルトキハ議長ニ故障アルモノトシ

テ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ市會



ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト為ス可シ  
第三十九條 市叅事會員ハ會議ニ列席  
シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十條 市會ハ會議ノ必要アル毎ニ  
議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以  
上ノ請求アルトキ又ハ市長若クハ市  
叅事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招  
集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知  
スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外  
少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會

ノ議決ヲ以テ豫ノ會議日ヲ定ムルモ  
妨ケナシ

市叅事會員ヲ市會ノ會議ニ招集スル  
トキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條 市會ハ議員三分ノ二以上  
出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ  
得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至  
ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキ  
ハ此限ニ在ラス

第四十二條 市會ノ議決ハ可否ノ多数



ニ依リ之ヲ定ム可否同数ナルトキハ  
再議議決ス可シ若シ猶同数ナルトキ  
ハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 議員ハ自己及其父母兄弟  
若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ  
付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得  
ス  
議員ノ数此除名ノ為ニ減少シテ會  
議ヲ開クノ定数ニ滿タサルトキハ府  
縣忝事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條 市會ニ於テ市吏員ノ選舉  
ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ  
以テ之ヲ為シ有效投票ノ過半数ヲ得  
ル者ヲ以テ當選トス若シ過半数ヲ得  
ル者ナキトキハ最多数ヲ得ル者二名  
ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ  
最多数ヲ得ル者三名以上同数ナルト  
キハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ  
更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶  
過半数ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以



テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス前項ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス

若シ傍聽者ノ公然贅成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條 市會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員ニ名以上之ニ署名ス可シ市會ハ議事録ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ



其議決ヲ市長ニ報告ス可シ  
市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス  
第四十八條 市會ハ其會議細則ヲ設ク  
可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス  
可キ過怠金貳圓以下ノ罰則ヲ設クル  
コトヲ得

第三章 市行政

第一款 市參事會及市吏員ノ組

織選任

第四十九條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ  
吏員ヲ以テ之ヲ組織ス  
一市長 一名  
二助役 東京ハ三名京都大坂ハ各二名  
其他ハ一名  
三名譽職參事會員 東京ハ十二名京都  
大坂ハ各九名其他ハ六名



助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ  
其定員ヲ増減スルコトヲ得

第五十條 市長ハ有給吏員トス其任期  
ハ六年トシ内務大臣 市會ヲシテ候補  
者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ  
可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推  
薦ヲ為サシム可シ再推薦ニシテ猶裁  
可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁  
可ヲ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時  
代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏

ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可  
シ

第五十一條 助役及名譽職參事會員ハ  
市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條  
ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキ  
ハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ  
決ス可シ

第五十二條 助役ハ有給吏員トシ其任  
期ハ六年トス  
助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク



ルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルト  
キハ再選舉ヲ為ス可シ再選舉ニシテ  
猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ  
行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事  
ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以  
テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セ  
シム可シ

第五十三條 市長及助役ハ其市公民タ  
ル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ  
其公民タルノ權ヲ得

第五十四條 名譽職参事會員ハ其市公  
民中年齡滿三十歳以上ニシテ選舉權  
ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ  
四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者  
就職ノ日迄在職スルモノトス  
名譽職参事會員ハ每二年其半數ヲ改  
選ス若シ二分ニ難キトキハ初回ニ於  
テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退  
任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者  
ハ再選セラルコトヲ得



若シ闕員アルトキハ其残任期ヲ補充  
スル為ノ直ニ補闕選舉ヲ為ス可シ  
第五十五條 市長及助役其他参事會員  
ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼  
又ルコトヲ得ス同條第四項ニ掲載ス  
ル者ハ名譽職参事會員ニ選舉セラレ  
ルコトヲ得ス  
父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ  
市参事會員タルコトヲ得ス若シ其縁  
故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其

縁故アル市参事會員ハ其職ヲ退ク可  
シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス  
市長及助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルト  
キハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場  
合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失  
フモノトス

第五十六條 市長及助役ハ他ノ有給ノ  
職務ヲ兼任シ又ハ株式会社ノ社長及  
重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ  
府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之



ヲ為スコトヲ得ス

第五十七條 名譽職參事會員ノ選舉ニ付テハ市參事會自ラ其效力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事

會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ通用ス

第五十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス

收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス  
收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條第



五十二條第五十三條第五十五條及第七十六條ヲ通用ス

收入後ハ身元保證金ヲ出ス可シ

第五十九條 市ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條 凡市ハ處務便宜ノ為メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分テ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコト

ヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都大坂ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト為スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十三條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但東京京都大坂ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大坂ニ於テハ前條ニ依リ區



ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得  
第六十一條 市ハ市會ノ議決ニ依リ臨  
時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其  
委員ハ名譽職トス  
委員ハ市參事會員又ハ市會議員ヲ以  
テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議  
員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト  
市公民中選舉權ヲ有スル者トヲ以テ  
之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委  
員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會  
之ヲ選舉シ選舉權ヲ有スル公民ヨリ  
出ツル者ハ市參事會之ヲ選舉シ其他  
ノ委員ハ市長之ヲ選任ス  
常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ  
以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
第六十二條 區長及委員ニハ職務取扱  
ノ為ノニ要スル實費辨償ノ外市會ノ  
議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給  
スルコトヲ得



第六十三條 市吏員ハ任期満限ノ後再  
選セラル、コトヲ得  
市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約  
アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコ  
トヲ得

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權  
限及處務規程

第六十四條 市參事會ハ其市ヲ統轄シ其  
行政事務ヲ擔任ス  
市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如  
シ

一 市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行  
スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越工  
法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害  
スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ



意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由  
リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ  
之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサル  
トキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ  
其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ  
依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ  
於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者  
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
二市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事  
若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事

務ヲ監督スル事

三市ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他  
市會ノ議決ニ依テ定マリタル収入支  
出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事  
四市ノ權利ヲ保護シ市有財産ヲ管理ス  
ル事  
五市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ  
外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲  
戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金ト  
ス



六市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事  
七外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ  
以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若  
クハ人民ト高議スル事

八法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ  
使用料手数料市税及夫役現品ヲ賦課徴収  
スル事

九其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ  
市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理ス  
ル事

第六十五條 市參事會ハ議長又ハ其

代理者及名譽職會員定員三分ノ一以  
上出席スルトキハ議決ヲ為スコトヲ  
得

其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム  
可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル  
所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記  
ス可シ

市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令



ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムル  
トキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監  
督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決  
ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請  
フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背  
クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合  
ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者  
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十六條 第四十三條ノ規定ハ市參事  
會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從

ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得  
サルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノ  
トス

第六十七條 市長ハ市政一切ノ事務ヲ指  
揮監督シ處務ノ澁滯ナキコトヲ務ム可  
シ  
市長ハ市參事會ヲ召集シ之カ議長トナ  
ル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ  
之ニ充ツ

市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決



ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

第六十八條 急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第六十九條 市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲ

シテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコト得市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務并市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條 市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ



其費用ノ支拂ヲ為シ其他會計事務ヲ掌  
ル

第七十一條 書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分  
掌ス

第七十二條 區長及其代理者(第六十條)ハ  
市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受  
ケテ區内ニ關スル市行政事務ヲ補助執  
行スルモノトス

第七十三條 委員ハ(第六十一條)市參事會  
ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌

シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又  
ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモ  
ノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加  
ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ  
職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段  
ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條 市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ  
事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命



令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ  
事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事  
務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラ  
ス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政并府縣ノ行政ニシテ市ニ屬  
スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキ  
ハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ  
之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムル

コトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ為メ  
ニ要スル費用ハ市ノ負擔トス



第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ為メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得  
實費辨償額及報酬額ハ市會之ヲ議決ス

第七十六條 市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム  
市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ム



ルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコト  
ヲ要ス若シ之ヲ許可ス可カラスト認ム  
ルトキハ内務大臣之ヲ確定ス  
市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ム  
ルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコト  
ヲ要ス府縣知事ニ於テ之ヲ許可ス可カ  
ラスト認ムルトキハ府縣參事會ノ議決  
ニ付シテ之ヲ確定ス  
市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市  
條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第七十七條 市條例ノ規定ヲ以テ市長其  
他有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得  
第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他  
第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議  
アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參  
事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ  
不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ  
府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ



給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又  
ハ更ニ退隠料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ  
其額舊退隠料ト同額以上ナルトキハ舊  
退隠料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隠料、報酬及辨償ハ總テ  
市ノ負擔トス

#### 第四章 市有財産ノ管理

##### 第一款 市有財産及市税

第八十一條 市ハ其不動産積立金穀等  
ヲ以テ基本財産ト為シ之ヲ維持スル  
義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ  
加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用  
ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス  
第八十二條 凡市有財産ハ全市ノ為メ  
ニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但



特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルト  
キハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民  
中特ニ其市有ノ土地物件ヲ使用スル  
權利ヲ有スル者アルトキハ市會ノ議  
決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムル  
コトヲ得ス

第八十四條 市住民中特ニ市有ノ土地  
物件ヲ使用スル權利ヲ得ニトスル者  
アルトキハ市條例ノ規定ニ依リ使用

料若クハ一時ノ加入金ヲ徴收シ又ハ  
使用料加入金ヲ共ニ徴收シテ之ヲ許  
可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ  
權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十  
三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準  
テ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ  
分擔ス可キモノトス

第八十六條 市會ハ市ノ為メニ必要ナ  
ル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第



八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコト  
ヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有ス  
ル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 市有財産ノ賣却貸與又ハ  
建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ  
入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スル  
トキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得  
失相償ハサルトキ又ハ市會ノ認許ヲ  
得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 市ハ其必要ナル支出及從

前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將  
來法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出  
ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、  
手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他  
法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以  
テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキ  
ハ市稅(第九十條)及夫役現品(第一百一條)  
ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 市ハ其所有物及營造物ノ



使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ為メニス  
ル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收  
スルコトヲ得

第九十條 市税トシテ賦課スルコトヲ  
得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附  
加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ  
徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅

ノ外別ニ市限リ稅目ヲ起シテ課稅ス  
ルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモ  
ノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ  
除クノ外使用料手数料(第八十九條特  
別稅)第九十條第一項第二及従前ノ區  
町村費ニ關スル細則ハ市條例ヲ以テ  
之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓  
九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ  
得



科料ニ處之及之ヲ徵收スルハ市參事會之ヲ掌ル其處分不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上市内ニ滞在スル者ハ其市税ヲ納ムルモノトス但其課税ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 市内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ市内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ

為ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得税ニ附加税ヲ賦課シ及市ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課セシトスルトキハ納税者ノ市外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ



之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ  
滞在スル者ニ前條ノ市税ヲ賦課スル  
トキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其  
一部分ニノ課税ス可シ但土地家屋  
又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ  
在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲クル  
所得ハ市税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ市

税ヲ免除ス

- 一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ  
屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營  
造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他  
學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土  
地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山  
林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業  
ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許



可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此  
限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月  
ヲ限り免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外市稅ヲ免除ス  
可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル  
所ニ從フ皇族ニ係ル市稅ノ賦課ハ追  
テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例  
ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用ス

ル所ノ營造物アルトキハ其修築及保  
存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可  
シ

市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造  
物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ  
滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業店  
舗ヲ定メサル行商ヲ除クヲ為ス者ニ  
於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可  
シ但其一區ノ所有財産アルトキハ其  
收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ



第百條 市税ハ納税義務ノ起リタル翌  
月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ  
終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ  
會計年度中ニ於テ納税義務消滅シ又  
ハ變更スルトキハ納税者ヨリ之ヲ市  
長ニ届出ツ可シ其届出ヲ為シタル月  
ノ終迄ハ従前ノ税ヲ徵收スルコトヲ  
得  
第百一條 市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公  
共ノ安寧ヲ維持スルカ為メニ夫役及

現品ヲ以テ納税者ニ賦課スルコトヲ  
得但學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ  
課スルコトヲ得ス  
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外  
直接市税ヲ準率ト為シ且之ヲ金額ニ  
算出シテ賦課ス可シ  
夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從  
ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人  
ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除ク  
ノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得



第二百二條 市ニ於テ徵收スル使用料、手  
數料(第八十九條)市稅(第九十條)夫役ニ  
代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及  
加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定  
期內ニ納メサルトキハ市參事會ハ之  
ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國  
稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ  
其督促ヲ為スニハ市條例ノ規定ニ依  
リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得  
納稅者中無資力ナル者アルトキハ市

參事會ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限  
リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ  
越スル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依  
ル  
本條ニ記載スル徵收金ノ追徵期滿得  
免及先取持權ニ付テハ國稅ニ關スル  
規則ヲ適用ス  
第二百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅  
者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課ス  
ル市稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課



スルコトヲ得

第百四條 市税ノ賦課ニ對スル訴願ハ  
賦課令状ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ  
市參事會ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過  
スルトキハ其年度内減税免稅及償還  
ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條 市税ノ賦課及市ノ營造物市  
有財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關  
スル訴願ハ市參事會之ヲ裁決ス但民  
法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラ

ス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事  
會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不  
服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ為メニ其處分ノ  
執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ  
従前ノ公債元額ヲ償還スル為メ又ハ  
天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ



市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要  
スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルト  
キハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場  
合ニ限ルモノトス  
市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スル  
トキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ定  
率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初  
期ハ三年以内ト為シ年々償還ノ歩合  
ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還  
了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ為スカ為メ必要  
ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラ  
ズ其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キ  
モノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決  
ヲ要セス



第二款 市ノ歳入出豫算及決算  
第一百七條 市參事會ハ每會計年度收入  
支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年  
度前二ヶ月ヲ限り歳入出豫算表ヲ調  
製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會  
計年度ニ同シ  
内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ  
式ヲ定ムルコトヲ得  
第一百八條 豫算表ハ會計年度前市會ノ  
議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告ニ並



地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告  
ス可シ

豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參  
事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財  
産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算  
ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ  
之ヲ支出スルトコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ  
為メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ

市會ノ認定ヲ受ケスニテ豫算外ノ費  
用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコト  
ヲ得但市會ノ否決ニタル費途ニ充ツ  
ルコトヲ得ス

第百十條 市會ニ於テ豫算表ヲ議決シ  
タルトキハ市長ヨリ其謄寫ヲ以テ之  
ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監  
督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ  
事項アルトキハ(第百二十一條ヨリ第百二十  
三條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ



收入役ハ市参事會第六十四條第二項  
第三又ハ監督官廳ノ命令ヲルニ非サ  
レハ支拂ヲ為スコトヲ得ス又收入役  
ハ市参事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫  
算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條  
規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ為スコトヲ得ス  
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收  
入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定  
メテ檢査シ及毎年セクモ一回臨時檢

査ヲ為ス可シ例月檢査ハ市長又ハ其  
代理者之ヲ為シ臨時檢査ハ市長又ハ  
其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員  
一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ  
三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併  
セテ收入役ヨリ之ヲ市参事會ニ提出  
シ市参事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ  
テ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會  
ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ



府縣知事ニ報告ス可シ  
決算報告ヲ為ストキハ第三十八條及  
第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故  
障アルモノトス

### 第五章

特別ノ財産ヲ有スル市

區ノ行政

### 第百十三條

市内ノ一區ニシテ特別ニ

財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其  
區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔  
スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意  
見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物  
ニ關スル事務ノ為メ區會ヲ設クルコ  
トヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スル  
コトヲ得



第百十四條 前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ関スル規則ニ依リ市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百十六條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スル



コトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ  
裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日  
ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ  
提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ム  
ルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知  
事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリ  
テ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決  
書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリニ

十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル  
場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコト  
ヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ  
裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規  
定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停  
止ノ為メニ市ノ公益ニ害アリト為スト  
キハ此限ニ在ラス

第百十七條

監督官廳ハ市行政ノ法律命



令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂澁滞セサ  
ヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ為メ  
ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ為サシメ豫  
算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ  
就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲ス  
ルノ權ヲ有ス

第百十八條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負  
擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令ス  
ル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨  
時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ

府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定  
額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可  
シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十九條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ  
議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府  
縣參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十條 內務大臣ハ市會ヲ解散セシ  
ムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於



テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選  
ス可キコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集  
會スル迄ハ府縣參事會市會ニ代テ一切  
ノ事件ヲ議決ス

第百二十一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ  
議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ  
要ス

- 一 市條例ヲ設ケ並改正スル事
- 二 學藝、美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若

クハ大ナル變更ヲ為ス事

前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之  
ヲ許可ス可シ

第百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ  
議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受  
クルコトヲ要ス

- 一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ  
増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違  
フモノ但償還期限三年以内ノモノ  
ハ此限ニ在ラス



- 二 市特別税並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 地租七分ノ一其他直接國税百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事
- 四 間接國税ニ附加税ヲ賦課スル事
- 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ

議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事（第八十一條）
- 三 市有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ為ス事
- 四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ為ス事（第八十六



條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スニテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスニテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスニテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第二百二十四條 府縣知事ハ市長、助役、市參事會負、委員、區長其他市吏負ニ對シ懲戒處分ヲ行フエトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス其過怠金ハ二十五圓以下トス

追テ市吏負ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ  
一 市參事會ノ懲戒處分(第六十四條



第二項第五)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル市吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守テサル者

又ハ職務舉テサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十三條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所為ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ為メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス



四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ為シ  
府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不  
服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スル  
コトヲ得  
市長ノ解職ニ係ル裁決ハ上奏シテ  
之ヲ執行ス  
監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員  
ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコ  
トヲ得

第百二十五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡

サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ為メ  
市ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ  
府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル  
者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シ  
タル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出  
訴スルコトヲ得但出訴ヲ為シタルトキ  
ハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フル  
コトヲ得

第七章 附則

第百二十六條 此法律ハ明治三二年四月一日ヨ



リ地方ノ情况ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申  
ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行  
ス

第百二十七條 府縣參事會及行政裁判所  
ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ  
府縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於  
テ之ヲ行フ可シ

第百二十八條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ  
選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務并  
市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣

知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施  
行ス可シ

第百二十九條 社寺宗教ノ組合ニ關シテ  
ハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地  
ノ習慣ニ從フ

第百三十條 此法律中ニ記載セル人口ハ  
最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キ  
タル數ヲ云フ

第百三十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於  
テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内



務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百二十二條 明治九年十月第三百十號  
布告各區町村金穀公借共有物取扱土木  
起功規則、明治十一年七月第十七號布告  
郡區町村編制法第四條、明治十七年五月  
第十四號布告、區町村會法、明治十七年五  
月第十五號布告、明治十七年七月第二十  
三號布告、明治十八年八月第二十五號布  
告、其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律  
施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百十三  
責ニ任シ之  
ヲ發布ス可シ



大臣ハ此法律實行ノ  
必要ナル命令及訓令





務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百三十二條 明治九年十月第三百三十號

布告各區 金穀公借共有物取扱土木

起功規則、明治十一年七月第十七號布告

郡區町村 制法第四條、明治十七年五月

第十四號 布告區町村會法、明治十七年五

月第十五號 布告、明治十七年七月第二十

三號布告、明治十八年八月第二十五號布

告其他比 抵觸スル成規ハ此法律

施行ノ 之ヲ廢止ス



第三百三十三條 內務大臣ハ此法律實行ノ

責ニ任シ之カ為メ必要ナル命令及訓令

ヲ發布ス可シ



町村制

第一章

總則

第一款

町村及其區域

第二款

町村住民及其權利義務

第三款

町村條例

第二章

町村會

第一款

組織及選舉

第二款

職務權限及處務規程

第三章

町村行政



第一款 町村吏員ノ組織選任  
 第二款 町村吏員ノ職務權限  
 第三款 給料及給與  
 第四章 町村有財産ノ管理  
 第一款 町村有財産及町村税  
 第二款 町村ノ歳入出豫算及決算  
 第五章 町村内各部ノ行政  
 第六章 町村組合  
 第七章 町村行政ノ監督  
 第八章 附則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ  
 除キ總テ町村ニ施行スルモノトス  
 第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權  
 利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ  
 事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處  
 理スルモノトス  
 第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ



之ヲ變更セズ但將來其變更ヲ要スル  
コトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ  
第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキ  
ハ關係アル市町村會及郡縣事會ノ意  
見ヲ聞キ府縣事會之ヲ議決シ内務  
大臣ノ許可ヲ受ク可シ  
町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係  
アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡縣  
事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ  
市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣事會之

内務  
閣

ヲ議決ス  
町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スル  
ニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキ  
ハ關係者ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合  
併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル  
可シ  
本條ノ處分ニ付其町村ノ財産處分ヲ  
要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ  
第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡  
縣事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉リ若ク

内務  
閣



ハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會  
之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服  
アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣  
參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁  
判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款

町村住民及其權利義務

第六條

凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ

總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公  
共ノ營造物并町村有財產ヲ共用スル  
ノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任ス  
ルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民  
法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルト  
キハ此限ニ在ラス

第七條

凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有ス



ル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民  
トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)  
其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直  
接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其  
町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受  
ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在  
ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以  
テ本條ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免  
スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十

五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ  
禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ忝

與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラレ、ノ  
權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町  
村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒  
辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス  
一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者  
二 營業ノ為メニ常ニ其町村内ニ居



ルコトヲ得サル者

三 年齢満六十歳以上ノ者

四 官職ノ為メニ町村ノ公務ヲ執ル  
コトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職  
ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者

及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾  
後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ  
理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ  
又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職  
務ヲ少クモ三年間擔當セズ又ハ其職  
務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ  
議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村  
公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其  
負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分  
一ヲ増課スルコトヲ得  
前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡  
叅事會ニ訴願シ其郡叅事會ノ裁決ニ



不服アル者ハ府縣忝事會ニ訴願シ其  
府縣忝事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行  
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條

町村公民タル者第七條ニ掲載  
スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タ  
ルノ權ヲ失フモノトス

町村公民タル者身代限處分中又ハ公  
權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕  
罪ノ為ノ裁判上ノ訊問若クハ勾留中  
又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ

權ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公

務ニ參與セサルモノトス

町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職

務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ

其職務ヲ解ク可キモノトス



第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ抵触スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ



地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

## 第二章 町村會

### 第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

- 一 人口千五百未満町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未満町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未満町村ニ於テハ 議員十八人



一人口一萬以上二萬未滿町村に於てハ 議員二十四人  
一人口二萬以上町村に於てハ 議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉  
權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラレ、  
者(第八條第三項第九條第二項)及陸海  
軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス  
凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村  
稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク  
納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キ  
トキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ

選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラレ  
、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此  
限ニ在ラス  
法律ニ從テ設立シタル會社其他法人  
ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同  
シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト為ス  
選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ  
合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半  
ニ當ル可キ者ヲ一級トシ兩餘ノ選舉



人ヲ二級トス

一級二級ノ間納祝額兩級ニ跨ル者ヲ  
ルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間  
ニ同額ノ納祝者二名以上アルトキハ  
其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ  
以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依  
リ難キトキハ年齡ヲ以テ年齡ニモ  
依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之  
ヲ定ム可シ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉

ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラヌ

兩級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例

ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ

以テ別ニ選舉ノ特別ヲ設クルコトヲ

得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民第

十二條第一項ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ町村會議員タルコト

ヲ得ス



一 所屬府縣郡ノ官吏  
二 有給ノ町村吏員  
三 檢察官及警察官吏  
四 神官僧侶及其他諸宗教師  
五 小學校教員  
其他官吏ニシテ當選ニ之ニ應セント  
スルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可  
シ  
代言人ニ非ヌシテ他人ノ為メニ裁判所  
又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スル

ヲ以テ業ト為ス者ハ議員ニ選舉セラ  
ル、コトヲ得ス  
父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ  
町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ  
選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依  
テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數  
ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニ  
シテ選舉セラレタル者ハ後者議員タ  
ルコトヲ得ス  
町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タ



ルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會  
議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間  
ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ  
選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁  
故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ  
六年トシ毎三年各級ニ於テ其半数ヲ  
改選ス若シ各級ノ議員二分ニ難キト  
キハ初回ニ於テ多数ノ一半ヲ解任セ  
シム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤

ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セララル、コトヲ得  
第十七條 議員中闕員アルトキハ每三  
年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選  
舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上  
闕員アルトキ又ハ町村會町村長若ク  
ハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ム  
ルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ  
行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ残任期間在職



スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選  
舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選  
舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其  
選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ  
各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據  
リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ  
選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ  
之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス可シ若シ關

係者ニ於テ訴願セントスルコトアル  
トキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立  
ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十  
七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可  
キトキハ選舉前十日ヲ限リテ  
之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之  
ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ  
選舉ニ關スルコトヲ得ス  
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ  
辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場



合ニ於テ更ニ選舉ヲ為ストキモ亦之  
ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村  
長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス  
可キ議員ノ數ヲ各級ニ分テ選舉前七  
日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ  
各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ  
二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ  
行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長

ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若ク  
ハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理  
者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其  
會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外  
何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ  
得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又  
ハ勸誘ヲ為スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行  
フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封



緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ  
但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコ  
トヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏  
名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉  
人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投  
票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ  
終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉  
ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其

投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモ  
ノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ  
棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀難キモノ
  - 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
  - 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
  - 四 被選舉人氏名外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理并效力ニ關スル事項ハ選  
舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルト



キハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行

フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコ

トヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有ス

ル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコト

ヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又

ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代

人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシ

テ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但

一人ニシテ數人ノ代理ヲ為スコトヲ

得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シ

テ代理ノ證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ

又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議

決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設

クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノ三

此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任ニタル

代理者ヲ以テ其長トシ第二十条ノ例



ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス  
選舉分會ニ於テ為シタル投票ハ投票  
函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數  
ヲ以テ當選ヲ定ム  
選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可  
シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ  
本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ  
多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ  
數相同キモ、八年長者ヲ取リ同年十

ルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ  
定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ  
第十七條投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘  
任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト為シ其  
數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ  
定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ  
選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル  
後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書



類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ  
投票ハ之ヲ選舉録ニ附屬シ選舉ヲ結  
了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛  
長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知  
ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五  
日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ  
一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルト  
キハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キ  
コトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申

立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者  
トナシ第八條ノ處分ヲ為ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ效力ニ關シ  
テ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨ  
リ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツル  
コトヲ得(第三十七條第一項)  
町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長  
ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關  
シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラ  
ズ郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコト



ヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

第三十條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ

有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得



第二款 職務権限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件并従前特ニ委任セラレ又ハ将来法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件、概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ并改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六



十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラ  
ズ

三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及  
豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除ク外  
使用料、手数料、町村税及夫役現品  
ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事

六 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓渡  
并質入書入ヲ為ス事

七 基本財産ノ處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク  
ノ外新ニ義務ノ負擔ヲ為シ及權利  
ノ棄却ヲ為ス事

九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ  
定ムル事

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徴シ并具  
金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ



其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行  
フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關ス  
ル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報  
告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行  
并收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ  
有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付  
意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得  
第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルト

キハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ  
有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人  
名簿ノ正否并其等級ノ當否、代理ヲ以テ  
執行スル選舉權(第十二條第二項)及町  
村會議員選舉ノ效力(第二十九條)ニ關ス  
ル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス  
前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利  
ノ有無并選舉權ノ有無ニ關スルモノハ  
町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長



之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ為スコトヲ得本條ノ訴願及訴訟ノ為メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非

サレハ更ニ選舉ヲ為スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代



理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會  
ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト為ス可シ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席  
シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎  
ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以  
上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可  
シ其招集并會議ノ事件ヲ告知スルハ  
急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クモ開

會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ  
以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上  
出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得  
ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ  
議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限  
ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數  
ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議  
議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ



可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ関スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス  
議員ノ數此除名ノ為メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ為シ有效投票ノ過半數ヲ得ル

者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指



名推選、法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會并延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録

ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末并出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ



至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

### 第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各

一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役

ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於

テ其町村公民中年齡滿三十歳以上ニシテ

選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選定ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載

スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス



父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村  
長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其縁  
故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當  
選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認  
可ヲ得ルトキハ其縁故アル助役ハ其職  
ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年  
トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依  
テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤

ノ法ニ依ラス郡叅事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス

但第五十六條ノ有給町村長及有給助役  
ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ為メニ要スル實費  
辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クル  
コトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ  
分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ  
亦同シ

第五十六條 町村ノ情況ニ依リ町村條例



ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト為スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ

受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ為スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ



與へサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト為ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與へサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ為ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク



收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會  
之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四  
年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコト  
ヲ得ス其他第五十六條第二項第五十  
七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可  
シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事  
會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會

之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス  
可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ  
之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六  
十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ  
於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ  
認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ  
許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入  
役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得



第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬  
員并使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人  
員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町  
村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ  
事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村  
會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス  
第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又  
ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ為メ  
町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分テ每

區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ  
得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村  
ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選  
舉ス區會(第百十四條)ヲ設クル區ニ於テ  
ハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ  
臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其  
委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町



村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ  
町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以  
テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ  
以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ  
為メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議  
決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スル  
コトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再

選セラル、コトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約  
アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコト  
ヲ得



第二款

町村吏員ノ職務権限

第六十八條

町村長ハ其町村ヲ統轄シ其

行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執

行スル事若シ町村會ノ議決其権限ヲ

越ヘ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益

ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己

ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ

依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止



シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサ  
ルトキハ郡参事會ノ裁決ヲ請フ可シ  
其權限ヲ越ヘ又ハ法律勅令ニ背クニ  
依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ  
於テ府縣参事會ノ裁決ニ不服アル者  
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
二町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル  
事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其  
事務ヲ監督スル事

三町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其

他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收  
入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視ス  
ル事

四町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ  
管理スル事

五町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ  
行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以  
下ノ過怠金トス

六町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管ス  
ル事



七外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

九其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左

ノ事務ヲ管掌ス

一司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラズ

二浦役場ノ事務

三國ノ行政并府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス



右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得  
之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得  
本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ為メ  
ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補  
助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシ  
テ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムル  
コトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス

助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス  
可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ  
受領シ其費用ノ支拂ヲ為シ其他會計事  
務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ  
分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ  
機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ  
關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモ



ノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若シクハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス  
委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト為ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト為リ并其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得



第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ為メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得  
實費辨償額報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス  
第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム  
町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料



額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡参事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡参事會之ヲ裁決ス其郡参事會ノ裁決ニ不服

アル者ハ府縣参事會ニ訴願シ其府縣参事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料退隱料報酬及辨償等ハ



總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村税

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金、穀等  
ヲ以テ基本財産ト為シ之ヲ維持スルノ  
義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加  
入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目  
的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス  
第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ為  
メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但



特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキ  
ハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民  
中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル  
權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議  
決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコ  
トヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ  
土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル  
者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使

用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ  
使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可  
スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利  
ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三  
條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其  
土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス  
可キモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ為メニ必要  
ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第



八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ  
得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者  
ハ此限ニ在ラズ

第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ  
建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入  
札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ  
及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償  
ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルト  
キハ此限ニ在ラズ

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及從  
前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來  
法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負  
擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、  
手数料(第八十九條)并科料、過怠金其他法  
律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ  
前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町  
村税(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦  
課徴收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ



使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ為メニスル  
事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スル  
コトヲ得

第九十條 町村税トシテ賦課スルコトヲ  
得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅  
二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加  
シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵  
收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外

別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スル  
コトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノ  
トス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ  
除クノ外使用料、手数料(第八十九  
條)特別稅(第九十條第一項第二)及  
従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條  
例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニ  
ハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ  
設クルコトヲ得



科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村  
長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ  
令狀交付後十四日以内ニ司法裁判  
所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在  
スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス  
但其課税ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收ス  
可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又  
ハ三ヶ月以上滞在スルコトナレト

雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又  
ハ營業ヲ為ス者(店舗ヲ定メサル行  
商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ  
其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納  
ムルモノトス其法人タルトキモ亦同  
シ但郵便電信及官設鉄道ノ業ハ此  
限ニ在ラス

第九十四條 所得税ニ附加税ヲ賦課  
シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦  
課セントスルトキハ納税者ノ町村



外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノニ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在

ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲ケル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲ケル物件ハ町村税ヲ免除ス

一 政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋



二 社寺及官立公立ノ學校病院其他  
學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル  
土地、營造物及家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山  
林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業  
ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許  
可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此  
限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年  
月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス  
可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所  
ニ從フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ  
法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依  
ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル  
所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ  
費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ  
町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造  
物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滯



在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗)ヲ  
定メサル行商ヲ除ク)ヲ為ス者ニ於テ其  
修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一  
部ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ  
先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條 町村税ハ納稅義務ノ起リタル翌  
月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終  
迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ  
會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ  
變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長

ニ届出ツ可シ其届出ヲ為シタル月ノ終  
迄ハ従前ノ税ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公  
共ノ安寧ヲ維持スルカ為メニ夫役及現  
品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但  
學藝、美術及手工ニ関スル勞役ヲ課スル  
コトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直  
接町村税ヲ準率ト為シ且之ヲ金額ニ算  
出シテ賦課ス可シ



夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ  
本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出  
スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金  
圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手  
敷料(第八十九條)町村税(第九十條)夫役ニ  
代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加  
入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期  
内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促  
シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處

分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ為  
スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ  
徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村  
長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅  
延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越エル場  
合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル  
本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免  
及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則  
ヲ適用ス



第百三條 地租ノ附加税ハ地租ノ納税者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村税ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令状ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減税免税及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條 町村税ノ賦課及町村ノ營造物

町村有ノ財産并其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラズ前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ為メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス



第百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ  
従前ノ公債元額ヲ償還スル為メ又ハ天  
災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村  
永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ  
方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其町  
村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限ルモ  
ノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スル  
トキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率  
及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ

三年以内ト為シ年々償還ノ歩合ヲ定メ  
募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ  
定額豫算内ノ支出ヲ為スカ為メ必要ナ  
ル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラズ其  
年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノト  
ス



第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第一百七條 町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知之得可キ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第一百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ并地



方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス  
可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町  
村長ハ併セテ其町村事務報告書及財  
産明細表ヲ提出ス可シ

第九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算  
ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得  
テ之ヲ支出スルトコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ  
為メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町

村會ノ認定ヲ受ケスニテ豫算外ノ費  
用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコト  
ヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充  
ツルコトヲ得ス

第十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決

シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以  
テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表  
中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受  
ク可キ事項アルトキハ(第百二十五條  
ヨリ第百二十七條ニ至ル)先ツ其許可



ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令ヲルニ非サレハ支拂ヲ為スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ為スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ為スコシ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ為シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之



ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ  
第百十三條 決算報告ヲ為ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ為スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ為メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得



其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコト  
ヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町  
村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長  
之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ  
事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分  
スル為メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許  
可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコト  
ヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ  
資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村  
ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ  
其事情ニ依リ合併ヲ不便ト為ストキ  
ハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組



合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議  
ヲ為ストキハ(第百十六條第一項)組合  
會議ノ組織事務ノ管理方法并其費用  
ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ  
前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町  
村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等  
其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其  
協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ  
之ヲ定ムヘシ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許  
可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ  
得ス



第七章

町村行政ノ監督

第一百九條

町村ノ行政ハ第一次ニ於

テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣

知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大

臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場

合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參

與スルハ別段ナリトス

第一百二十條

此法律中別段ノ規定アル

場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關ス

ル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ



裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ  
府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若ク  
ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ  
内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若  
クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シ  
タル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具  
シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ  
期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス  
此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣

知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服  
アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル  
者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シ  
タル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可  
シ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタ  
ル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スル  
コトヲ得ス  
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又  
ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別



ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依  
リ其停止ノ為メニ町村ノ公益ニ害ア  
リト為ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ  
法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂  
澁滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官  
廳ハ之カ為メニ行政事務ニ關シテ報  
告ヲ為サシメ豫算及決算等ノ書類帳  
簿ヲ徴シ并實地ニ就テ事務ノ現況ヲ  
視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ  
法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳  
ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定  
額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セ  
ス又ハ實行セサルトキハ都長ハ理由  
ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加  
ヘ又ハ臨時支出セシム可シ  
町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ  
不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ  
其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキ



ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
第百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス  
可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事  
會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解  
散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル  
場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ  
議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但  
改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會  
町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村  
會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケル  
コトヲ要ス

- 一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
- 二 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナ  
ル物品ノ賣却讓與質入書入交換若  
クハ大ナル變更ヲ為ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上  
ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ  
許可ス可シ



第百二十六條

左ノ事件ニ關スル町村

會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許  
可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額

ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ

違フモノ但償還期限三年以内ノモ

ノハ此限ニ在ラス

二 町村特別税并使用料手数料ヲ新設

シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ

五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル

事

四 尙接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補

助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定

ムル事

第百二十七條

左ノ事件ニ關スル町村

會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クル

コトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ



并改正スル事

二基本財産ノ處分ニ関スル事(第八十  
一條)

三町村有不動産ノ賣却讓與并質入書  
入ヲ為ス事

四各個人特ニ使用スル町村有土地使  
用法ノ變更ヲ為ス事(第八十六條)

五各種ノ保證ヲ與フル事

六法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非  
スレテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町

村住民ニ負擔ヲ課スル事

七均一ノ税率ニ據ラスレテ國稅府縣  
稅附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第  
二項)

八第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村  
内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九第一百一條ノ準率ニ據ラスレテ夫役  
及現品ヲ賦課スル事

第一百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長  
助役委員區長其他町村吏員ニ對シ懲



戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ  
譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル  
過怠金八十圓以下府縣知事ノ處分ニ  
係ルモノハ二十五圓以下トス  
追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ  
左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス  
可シ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二  
項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願  
シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府

縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決  
ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴  
スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府  
縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處  
分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁  
判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職  
務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情  
狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失



フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所為ニ非スレテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ為メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フ

モノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ為シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務



ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アル  
力為メ町村ニ對シテ賠償ス可キコト  
アルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁  
決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又  
ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ  
府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ  
裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出  
訴スルコトヲ得但訴願ヲ為シタルト  
キハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フ  
ルコトヲ得

### 第八章

#### 附則

#### 第三十條

郡參事會府縣參事會及行

政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會  
ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府  
縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於  
テ之ヲ行フ可シ

#### 第三十一條

此法律ニ依リ初テ議員

ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職  
務并町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ  
郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ



施行ス可シ

第百三十二條

此法律ハ北海道沖繩縣  
其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ

施行セズ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條

前條ノ外特別ノ事情アル  
地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具

申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ

以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコト

アル可シ

第百三十四條

社寺宗教ノ組合ニ關シ

テハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及  
其地ノ習慣ニ從フ

第百三十五條

此法律中ニ記載セル人  
口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人

ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十六條

現行ノ租稅中此法律ニ  
於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別

ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十七條

此法律ハ明治二十二年  
四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府



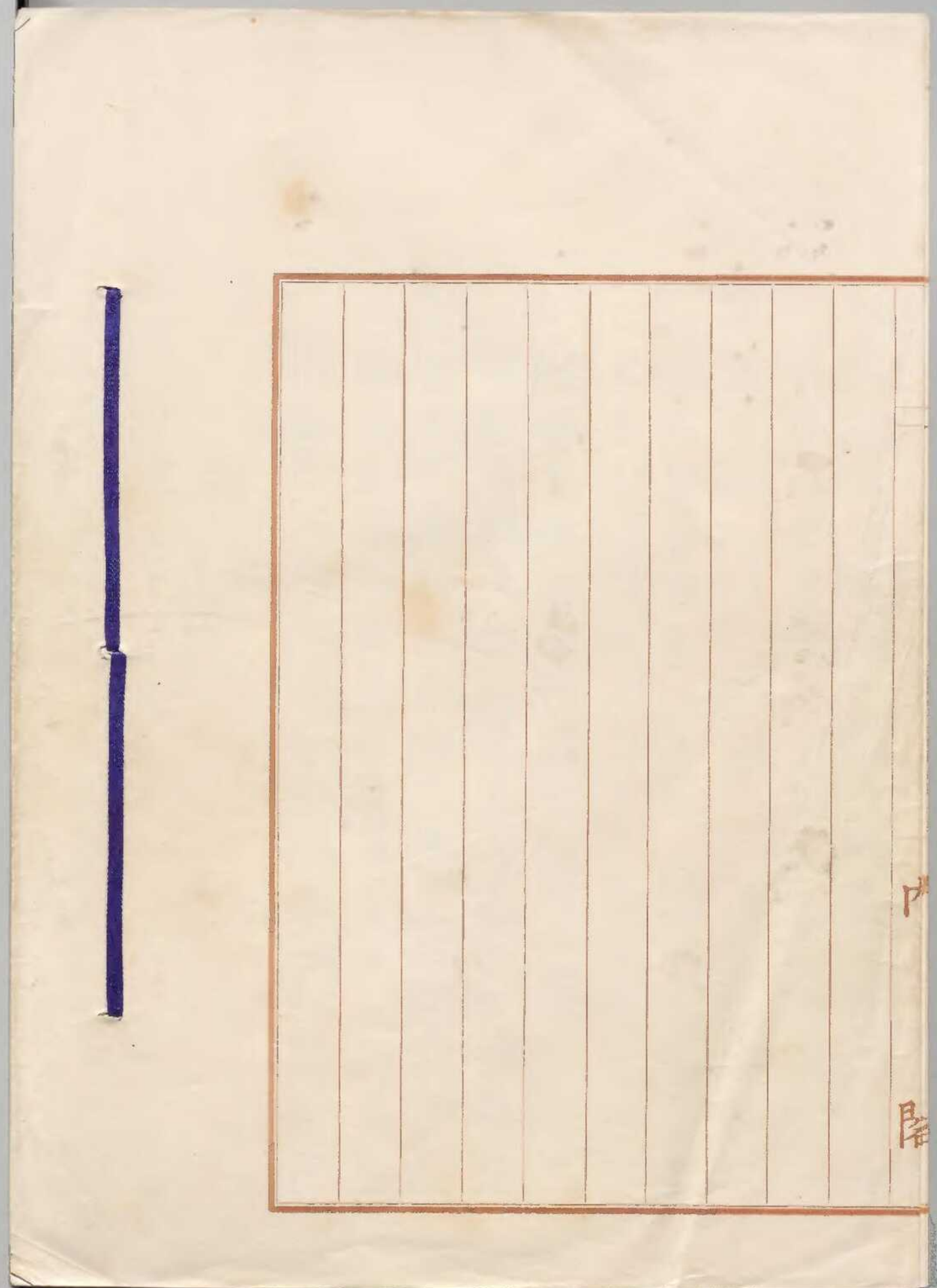
縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮  
ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第百三十八條 明治九年十月第百三十  
號布告各區町村金穀公借共有物取扱  
土木起功規則明治十一年七月第十七  
號布告郡區町村編制法第六條及第九  
條但書明治十七年五月第十四號布告  
區町村會法明治十七年五月第十五號  
布告明治十七年七月第二十三號布告  
明治十八年八月第二十五號布告其他

此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行  
ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十九條 内務大臣ハ此法律實行  
ノ責ニ任シ之カ為メ必要ナル命令及  
訓令ヲ發布ス可シ





内

目録